

ハバードコイル再現2

渡辺 満（静岡県）

§0 はじめに

この書を、フリーエネルギーの先駆者、アメリカの天才 Alfred M. Hubbard に贈る。

これは、「ハバードコイル再現1.pdf」の続きである。

今回は、前回描いた大まかな構図に従って、自分のできる範囲内で、良さそうなものを、組み立ててみた。

これまでは、十分な出力が、得られなかったので、

(出力/入力)比の評価は、まったくやる気が、起きなかった。

しかし今回は、かなりの出力があると感じたので、この評価を試みた。

どうやったかという、出力先に、

家庭用の 100V5W 電球(昔からのフィラメント電球)を付け、

その明るさから判定した。

詳細は後述するが(§3)、結果は、

出力が入力の 1.5 倍ぐらいだろう、ということになった。

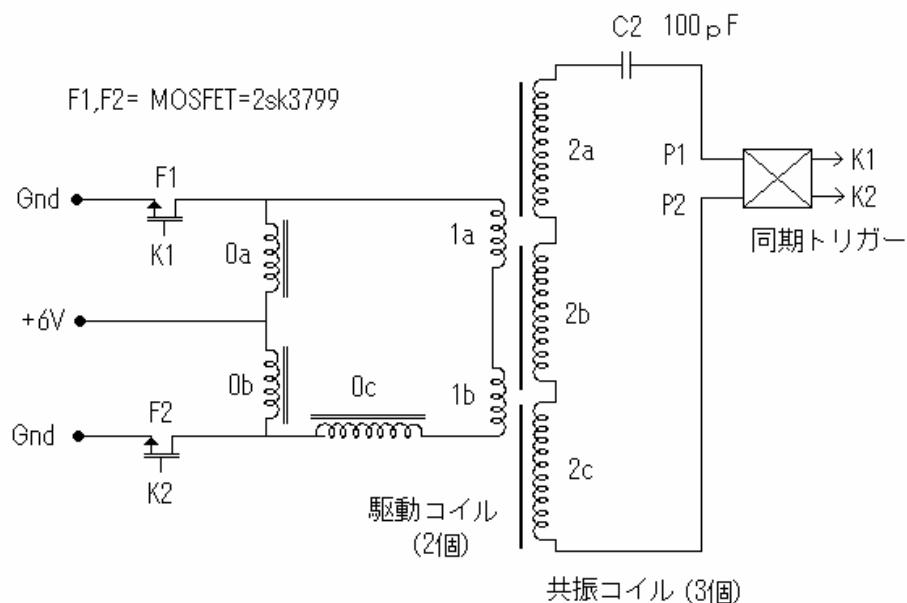
ハバードコイルは 3 倍ぐらい、と言われているから、

それには、まだ達していないが……。

電源電圧が低いということも、結果に影響しているかもしれない。

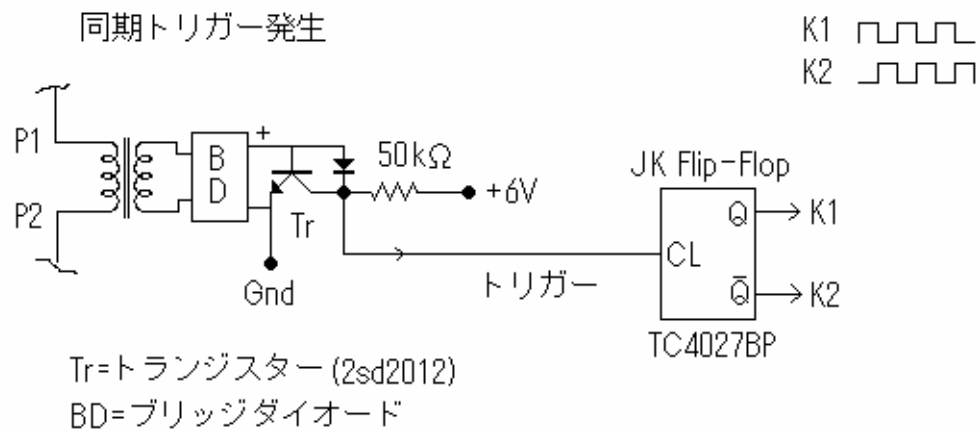
(最後のページに、装置の写真を載せた。)

§1 回路



前回、共振コイルの数を増やすと、出力も増えることがわかった。
そこで今回は、共振コイルを3個に増やしてみた。

●トリガー発生



前回と異なる点は、入り口 P1、P2 に、小さなコイルを付けた。

この方が、タイミングがよいらしく、発振しやすいようだ。

このコイルは、

コモンモードノイズフィルタ(チョークコイル):FM03D382MPF(日立金属ファインメット)

ファインメットのコイルやコアは、なかなか手に入らない。

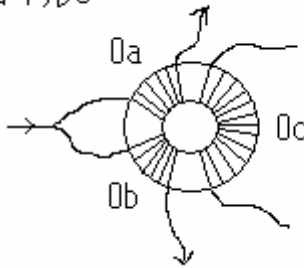
これは以前、秋月電子で見つけて、いくつか買っておいたものを用いた。

小さなコイルだが、こういう所に使用すると、効果的である。
直径 25mm、左右に各々25 回巻いてあり、インダクタンスは 15mH と書いてある。
小さいくせに、L が随分大きい。

§2 コイル

● コイル0 (0a,0b,0c)

コイル0



0a,0bの
磁束が逆向き



コイル0は、パルス状の電流を発生させるためのもので、
0a,0b,0c の 3 つからなる。

コアは、ファインメット・トロイダルコア:F1AH1111

(外形 80mm,内径 50mm,厚さ 26mm)

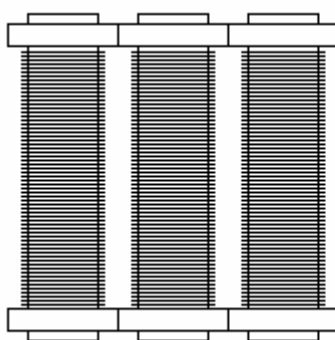
これに、0a,0b=1.2m(約 15 回巻)、0c=5m(約 60 回巻)

ファインメットでなく、フェライトのトロイダルコア(FT240)でもよいが、
その場合は、FT240 を 2 枚重ねにして、巻き数も倍以上にする必要がある。
0c の結線の方向に注意、逆につなぐとだめ。

ファインメットのコアは、なかなか手に入らない。

これは、たまたま、あるショップで見つけて、買っておいたものを、
どこかで使わないと、勿体ないと思い、使用した。

● 共振コイル(2a,2b,2c)



上から見ると

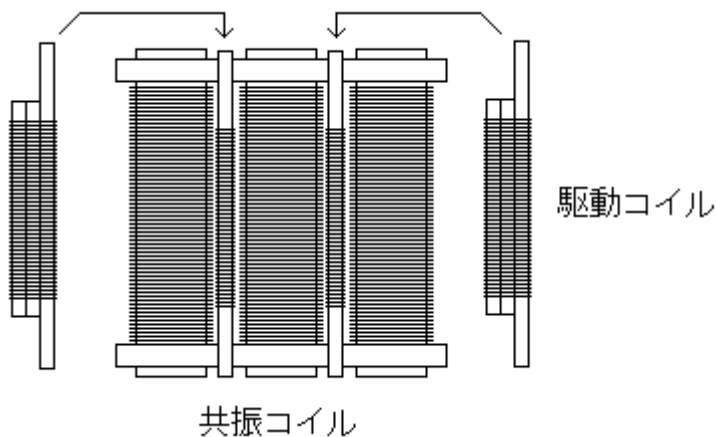


共振コイル 1500回巻を3本

共振コイルは、前回用いたものと同じものを、3 個用意し、
3 個を 1 列に並べ、互いに接触させて置き、直列に結線する。
そして磁束が、3 個共同じ方向を、向くようにする。

このように、複数の共振コイルを、互いに接触させて置くのは、隣どうしの、共振コイルの磁束が、ぶつかり合って、「磁束の衝突効果」を生み、その結果、共振が大きくなるためである。

● 駆動コイル(1a,1b)



駆動コイルは、棒状フェライトコア(10mmΦ20cm 長)(購入先:ラジオ少年)を1本と、棒状フェライトコア(10mmΦ12cm 長)を2本。これらを束ねて、その上へ導線 10m(約 140 回巻き)。これを2組作り、共振コイルの2箇所隙間に入れる。

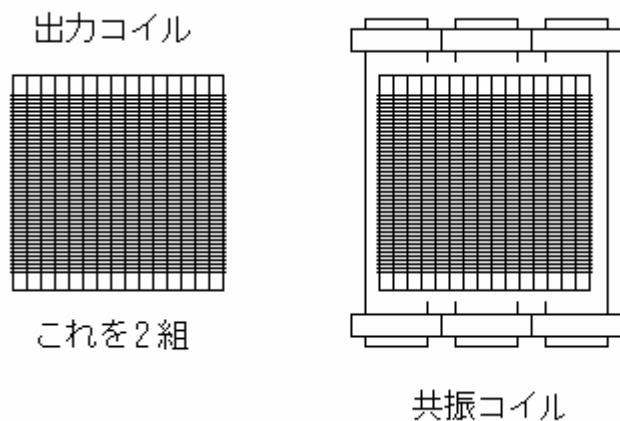
● 電源スイッチ ON!

電源は前回同様、AC アダプター DC6V(300mA)を用いた。電源スイッチ ON で、共振回路は、自動的に発振する。周波数は 10kHz。

10k 20k 40k 80k 160k 320k 640k 1.2M 2.4M … 各々Hz
 …これは僕が、X 共振と呼んでいる、特別な周波数列である。
 こういう実験をやっていると、しばしば、これらの周波数に遭遇する。
 X 共振は特に目立って強く、それで、これは、何か特別なものではないか？
 と思うようになった。

§3 出力

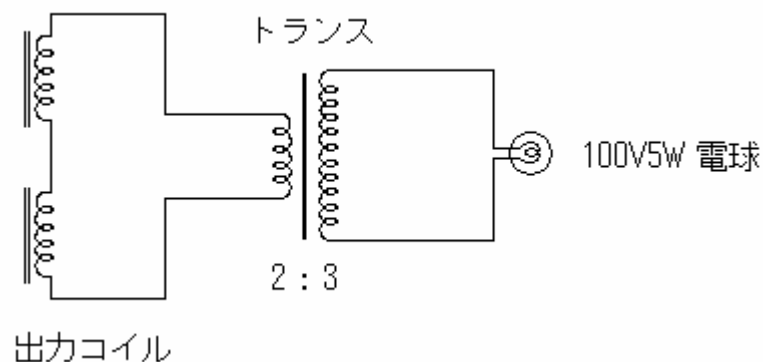
● 出力コイル



出力コイルとして、
棒状フェライトコア(10mmΦ12cm 長)を 15 本。
それを 1 列に、板状に並べて、その上へ導線 40m(約 120 回)を巻き、
平板状のコイルにした。
これを 2 組作り、共振コイルの前後に、共振コイルを挟んで配置。

このコア 15 本を、1 列に板状に固定するために、
台座として、タミヤのユニバーサルプレート(16cm×21cm)を使用した。
このプレートは、いろいろ使えて便利。

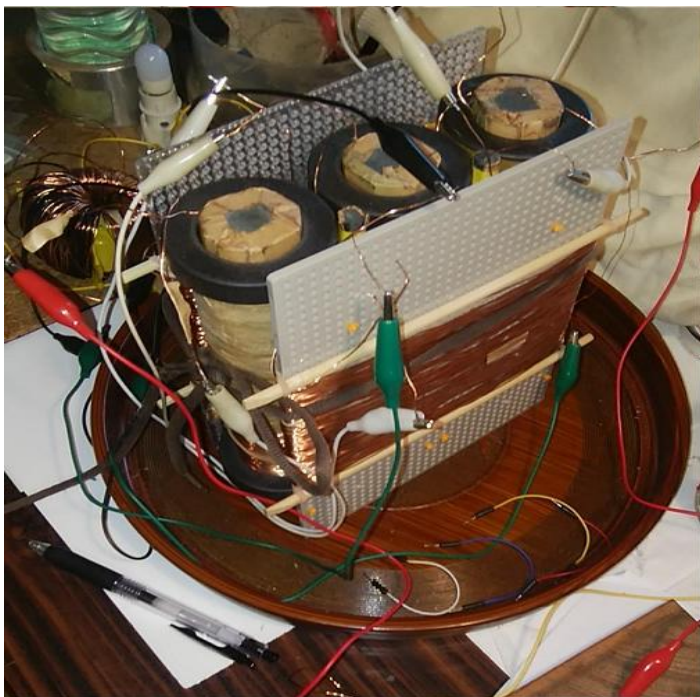
出力コイルは、共振コイルの発する磁束を捕らえ、
それを出力に変えるためのものだが、どういう形が最適なのか、
はっきり言って、よくわからない。
しかし、何もしなければ、結果が得られないので、
今回は、このような形のものにしてみた。



トランスは、トロイダルコア(FT240)を3枚重ねたものへ、
様々な長さの導線を巻き、自作した。
ここでは、2対3で昇圧している。

前回は出力として、50個のLEDを用いたが、LEDでは明るくなりすぎて、
どれもこれも、同じように見え、優劣が判別できない。
そこで今回は、家庭用の100V5W電球(昔からのフィラメント電球)を用いた。
この電球なら、そう簡単には光らないので、返って出力を、評価しやすい。

その結果、明るさは、
この電球を直接、家庭の100Vコンセントに差し込んだ程ではないが、
そこそこに光るので、それを眺めながら、
出力は、3Wぐらい、出ているのではないかと判断した。
電源は前回同様、ACアダプター DC6V(300mA)だから、
入力は多くとも、 $6V \times 0.3A = 1.8W$ だろう。すると、
出力/入力 = $3W / 1.8W$
ここからおおよそ、
出力は、入力の1.5倍ぐらいだろう、と判定した。



2018年6月発行 V1

2018年7月発行 V2

著者:渡辺 満, 発行者:渡辺 満

Copyright 渡辺 満 2018年